

テーマ: 自衛消防訓練(震災対応訓練)アンケート調査結果

Keep(継続したいこと、良かったこと)

【計画・運用】

1. 事前講習(自衛消防)の救助の訓練は参考になった
2. 事前講習(自衛・建物被害対応)で学んだ非常事態の具体的な対応手順
3. 事前講習(建物被害対応)によりiPadの使い方に戸惑うことなく活用できた
4. 事前講習(建物被害対応)により自分の役割りの流れが理解できていた
5. セミナー(講習会)参加者と組んだことで自らの不安な点を確認することが出来た
6. 進行役からのフォロー

【実施内容】

7. 情報の整理・共有・伝達(本部隊2名)
8. 建物被害部位の調査方法とそれを用いた残留可否などの判定
9. 班編成(役割り)の入れ替え
10. 傷病者搬送など、役割りを超えての臨機応変な活動とその指示
11. マニュアルのない訓練、個々の判断の確認
12. 担架搬送・応急救護の実技(地区隊3名)
13. 昨年よりも災害時の行動の流れが良く分かるようになった
14. 参加者が真剣な姿勢で取り組んでいた

【ツール】

15. iPadを取り入れた状況把握(地区隊4名)

Try(Problemに対する改善策、Keepを継続する工夫)

【計画・運用】

1. 訓練開始前に班構成に合わせて自己紹介を行う
2. 隊長は事前講習などで、班員への活動指示の流れをより詳細に理解してもらう
3. 訓練の難易度の工夫
4. 今回のような自衛消防訓練を各事業所でも実施できるようにする
5. 今後も訓練を継続的に実施
6. 訓練関連の情報の発信

【実施内容】

7. 情報の伝達・共有の訓練の実施
8. 放送機器の改善
9. 傷病者役のように避難者役も設置する

【ツール】

10. 各班員の役割りをより明確にし、フローチャートなどを改善
11. iPadを取り入れた災害状況把握を事業所でも取り入れる
12. ホワイトボードへの情報記入のフォーマットを作成
13. 隊を離れても情報を共有できるツールを用意する

Problem(問題点、不満)

【計画・運用】

1. 訓練開始前の自己紹介の順番が班編成に関係なくリスト順だった(3F地区隊)
2. 手の空く時間が多かった
3. 避難誘導する対象
4. 各班の役割りをより明白に

【実施内容】

5. 訓練開始直前がバタバタしていた
6. 隊長として指示に戸惑った(B1地区隊)
7. 隊の活動状況を理解するのに時間を要した
8. 隊本部を離れると情報が全く入ってこない
9. 安全防護班(地区隊)の仕事が遅れてしまった(B1地区隊)
10. 館内放送が聞き取れない(地区隊5名)

【ツール】

11. iPadを使用した建物被害の確認
12. ホワイトボードへの情報記入の方法

テーマ: 西口現地本部訓練アンケート調査結果

Keep(継続したいこと、良かったこと)

【計画・運用】

1. 滞留者誘導訓練

【実施内容】

2. 西口現地本部の役割りを理解できた人が多い
3. 班内での情報共有はできた
4. 滞留者として移動だけでなく、途中で体験・情報提供があり良かった(滞留者誘導)

【ツール】

5. 手順書・様式・エリア災害対応システム
6. エリア災害対応支援システムで情報を一括で見れるのが良かった
7. 新宿駅周辺地図・サイネージの活用・MCA無線(滞留者誘導)

Try(Problemに対する改善策、Keepを継続する工夫)

【計画・運用】

1. 現地本部要員を確保するための仕組みづくり
2. 班編成の見直し(本部長補佐・情報の集約と分析)
3. 手順書・及び様式を使用したワークショップ・事前の講習会
4. 掲示内容の見直し・連続した掲示物の提案
5. 協力事業者の拡大と地域内での同一デザインによる掲示

【実施内容】

6. MCA無線の活用・連絡網の整備
7. 被災状況をイメージさせる訓練・天候などの考慮(滞留者誘導)
8. 要介護者の視点での訓練(滞留者誘導)

【ツール】

9. 様式の改善(余白の拡大・2枚目の追加)
10. 重複する様式の精査
11. ボランティアのマッチングに関する様式の記入方法を定める
12. MCA無線の使用法・ルールの取り決め
13. 事前説明のいらぬインターフェイスの開発
14. 地図の改善(ランドマークの写真貼り付け・英語での表記など)(滞留者誘導)

Problem(問題点、不満)

【計画・運用】

1. 現地本部を運営要員をどのように確保するか
2. 各班の役割りが不明瞭
3. 手順書を読む時間がなかった
4. サイネージには事前に決めた内容しか表示できない
5. 工学院大学だけではなく他のサイネージがあると良い(滞留者誘導)

【実施内容】

6. 現場がどのような状況なのか全体で共有したかった
7. 地震による被害を想像することが難しかった(滞留者誘導)
8. 要介護者役の滞留者がいなかった(滞留者誘導)

【ツール】

9. 様式の記入スペースが少ない・使用しない様式があった
10. 様式の記入方法の統一が必要
11. ボランティアの人数の増減をうまくまとめられず、確認しづらかった
12. 無線使い方がわかりにくかった
13. システムが何度かタイムアウトになってしまった(滞留者誘導)
14. システムの地図情報で自分の位置がわかると良い(滞留者誘導)
15. 配布された地図で目印になる建物は英語表記があるとよい(滞留者誘導)
16. 配布された地図では位置を把握するのが難しい(滞留者誘導)

テーマ:医療救護訓練 アンケート調査結果

(1/2)

Keep(継続したいこと、良かったこと)

【計画・運用】

1. 訓練の2回実施は有意義(情報連絡班2名、応急救護班1名、医療救護班1名、評価者1名)
2. 1回目、2回目と役割を変更し、役割や流れから全体像を把握できた(情報連絡班3名)
3. 訓練後の振り返りで注意点、改善点を共有できた(医療救護班)
4. 訓練難易度が高くないため頭に残った(応急救護班)
5. ベスト演技賞の設定等も良かった(医療救護班)

【実施内容】

6. 2回目は1回目より確実に上達、改善した(応急救護班2名)
7. 2回目は役割を明確にし、皆が主体的に実施できた(情報連絡班2名)

Try(Problemに対する改善策、Keepを継続する工夫)

【計画・運用】

1. 参加人数を増やして更に大きな訓練に(応急救護班)
2. 様々な機関の方と訓練を行い、連携の重要性を感じた(評価者1名、情報連絡班1名)
3. 日頃から様々な機関が連携した訓練実施の必要性(情報連絡班)
4. 実際に仮想ではなく、西口に立ち上げを都や区も交えて現実的に協議していく必要性(情報連絡班)
5. 訓練中、手荷物(貴重品)を持ち歩くことを事前連絡(医療救護班)

Problem(問題点、不満)

【計画・運用】

1. 事前のルール等の取り決めが曖昧な所があり、混乱した(医療救護班)
2. 事前講習で、もう少し知識を入れてからの訓練(応急救護班)
3. 手荷物の置き場に困った(医療救護班)
4. 女性更衣室がなかった(医療救護班)

テーマ:医療救護訓練 アンケート調査結果

(2/2)

Keep(継続したいこと、良かったこと)

【実施内容】

8. 災害時の情報共有や役割間での連携の難しさを知れた(医療救護班1名、情報連絡班2名、責任者1名)
9. 情報伝達の効果的なやり方を学べた(医療救護班)
10. 素早くトリアージする方法の経験になった(医療救護班2名)
11. 傷病者の演技がリアルで災害時のイメージが出来た(応急救護班2名、医療救護班1名、評価者1名)
12. トリアージの判断基準のポイントを知り、体験できた(傷病者役2名)
13. アドバイザーのアドバイスがとても勉強になった(情報連絡班1名、応急救護班1名)
14. 応急手当についての実演(応急救護班)

【ツール】

15. 災害医療パックを利用した訓練は進行しやすく、良いモデルだと感じた(評価者)

Try(Problemに対する改善策、Keepを継続する工夫)

【実施内容】

6. 傷病者搬送ルートの改善(評価者)
7. ストレッチャーを受付に配置(評価者)
8. チーム内の声掛け、報告、応急救護班へ引渡し方等、コミュニケーションの取り方について(医療救護班)
9. 前提として責任分担の境目の定義をはっきりする(応急救護班)
10. 各々の役割を事前にしっかり把握する(情報連絡班)

【ツール】

11. 傷病者演技指導の説明時にノートPC等でビデオの活用(傷病者役)

Problem(問題点、不満)

【実施内容】

5. 1回目の訓練では役割分担が明確でなかった(情報連絡班)
6. 自分の班内ではコミュニケーションしやすいが他の班との連携の難しさ(情報連絡班)
7. ミーティングの時間を長めに取りたい(情報連絡班)
8. 傷病者の搬送ルートが混雑し、情報共有もできていないことがあった(評価者)
9. ストレッチャー隊を呼び、ストレッチャーを待つ時間のロスがあった(評価者)

【ツール】

10. 確認や把握は声出ししない限り、行動のみでは評価しづらいため評価ツールの改良(評価者)